

旧基準指数との接続（遡及）について 〔接続指数〕

平成23年（2011年）基準建築費指数は平成23年（2011年）以降を指数として作成している。したがって過去にさかのぼるためには基準年ごとに一定係数を乗じて計算しなければならない。これを接続指数という。接続指数は、標準指数、構造別平均指数については昭和55年（1980年）まで、地域指数のうち都市別指数の一部については平成2年（1990年）までさかのぼって計算し、平成23年（2011年）基準接続指数として公表している。

例えば、昭和55年（1980年）基準指数を平成23年（2011年）基準に接続する場合には下記の算式により算出される。

$$\begin{aligned} \text{平成23年基準接続指数} &= \text{昭和55年基準指数} \times \frac{100}{\text{昭和55年基準の昭和60年平均指数}} \\ &\times \frac{100}{\text{昭和60年基準の平成2年平均指数}} \\ &\times \frac{100}{\text{平成2年基準の平成7年平均指数}} \\ &\times \frac{100}{\text{平成7年基準の平成12年平均指数}} \\ &\times \frac{100}{\text{平成12年基準の平成17年平均指数}} \\ &\times \frac{100}{\text{平成17年基準の平成23年平均指数}} \end{aligned}$$

なお、建築費指数の基準改定では、基準年ごとに規模・内容の異なる建物で指数化しているので、上記の算式はあくまで便宜的なものである。

したがって、長期の時系列として利用される場合はこのことに留意願いたい。また、モデル指数と地域指数のうち都市間格差指数、連鎖方式による建築費指数は、接続指数の計算は行っていない。